

岩手県の 土地改良



CONTENTS

- 岩手県農地再生・活用対策本部を設置 2
- 千貫石ため池防災ダム事業完工 3
- 豊稔の秋を身をもって実感 3
- 平成21年度絵画・写真コンクール入選作品が決定 4
- 山王海ダムで「親子ふれあい研修」を開催 5
- 疏水紀行 6

2009(10月号)No.546

■発行所/岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

■編集発行人/川邊 賢治 ■印刷所/永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

子供百姓踊り(花巻市東和町) 平成21年度農村景観写真コンクール優秀賞



岩手県農地再生・活用対策本部を設置

▶ 県農業の持続的な発展を目指す

岩手県では農業を取り巻く現状と課題を認識し、全県的な農地の再生と活用を図ろうと9月28日、岩手県農地再生・活用対策本部（本部長：瀨川 純農林水産部長）を設置し、県庁4階会議室で第1回本部会議を開催した。



【挨拶する瀨川本部長】

農業振興課内に置かれた同対策本部は、岩手県のほか岩手県農協中央会、岩手県農業会議や本会など9つの関係団体で構成され、「耕作放棄地の再生・利用」「担い手への農地の面的利用集積」「産地づくり」「農業経営の高度化」「その他農地の再生や活用の対策」について平成23年度までの3年間を集中的に取り組む。

本部長の瀨川農林水産部長は「本県の農村地域では、耕作放棄地が増えてきており、農業従事者の高齢化により担い手も不

足してきている。このような状況の中、関係団体が一体となり農地の再生・活用を進めていかなければならない。農家の期待に応えられるよう取り組んでいく」と述べた。

協議では、「岩手県農地再生・活用対策本部の設置について」

「岩手県農地再生・活用対策基本方針（案）について」「いわての農地緊急再生運動（仮称）の展開について」「集落営農パワーアップ運動（仮称）の展開について」の内容を事務局が説明し、原案通り決定した。

「いわての農地緊急再生運動」



【会議風景】



では、耕作放棄地の再生や利用、面的利用集積で農地の効率的な有効活用を目指す。目標では、耕作放棄地6,952haのうち3,300haを再生するとともに、農地集積率を60%（平成20年度実績52%）まで引き上げるとしている。

「集落営農パワーアップ運動」では、集落の所得向上や地域活性化、産地づくり推進に向けて人材育成に取り組む。目標では平成23年度までに、経営の多角化を図った集落営農組織を200集落（平成20年度実績107集落）とするほか、1集落1戦略の実践モデルを70モデル（各市町村2モデル）としている。

千貫石ため池防災ダム 事業 完 工

▶堤体強化で地震時の安全を確保

千貫石地区県営防災ダム事業促進協議会（会長：高橋由一金ヶ崎町長）は、平成11年から金ヶ崎町で進められていた「県営防災ダム事業千貫石地区」が完工したことを受け、9月16日、同町の「ホテルみどりの郷」で完工記念式典を行った。

式典には、県、北上市や金ヶ崎町、地元自治会、施工業者など関係者約100名が出席。

本事業は、堤体の漏水や施設の老朽化による、豪雨、地震時の決壊を未然に防止し、農地、農業用施設を守るため、11年

の歳月をかけ施設の改修が行われた。

堤体最深部に設置されている土砂吐ゲートや導水路、斜樋方式の取水施設、そして、堤体上下流の押さえ盛土や堤体保護張りブロックなどの工事が行われ、機能の強化と安全性がより一層高められた。

高橋町長は「先人達の築いた功績に敬意を表し、立



派に完成したため池を良好な管理の下、後世に引き継ぐことを誓う」と式辞を述べた。



【式典で式辞を述べる協議会長の高橋金ヶ崎町長】

豊穡の秋を身をもって実感

▶松川小学校が稲刈り体験学習を実施

水土里ネット東山町では、水の大切さや水土里ネットの役割を理解してもらう目的で9月16日、地元の受益者や老人クラブの協力を得て、一関市立松川小学校の3年生から6年生約90名を対象に、稲刈り体験学習会を行った。

今年で、10回目を迎えるこの学習会は小学校近辺の田んぼを地元の受益者から借用して行っている。

冒頭で、小野輝彦 水土里ネット東山町理事長から「日頃、私たちが美味しいお米を食べられるのは、綺麗な水のおかげで

す。皆さんは、川や水路にゴミ等を捨てずに綺麗な水を大切にしていると思いますが、今後も続けていただきたいと思います。今日は、地域の方々や老人クラブの方々からご指導を受けながら稲刈り作業を頑張ってください」と述べた。



【丁寧に稲を刈る児童】



慣れた手つきで稲を刈り、束ねる作業を手際よく進める高学年に対し、初めて稲刈り作業を行う3年生らは、老人クラブの人々から鎌の使い方や稲の刈り方を教えられながら丁寧に稲を刈っていた。

今後も、水土里ネット東山町では同小学校と連携を図り体験学習や出前授業等を企画していく予定である。

平成21年度絵画・写真 コンクール入選作品が決定

▶ 絵画・写真コンクール審査委員会開催

本会が主催する平成21年度小中学生による「美しく豊かな村づくり」絵画コンクール並びに「農村景観」写真コンクールの審査委員会は10月8日、本会会議室において開催され、絵画・写真併せて約230点の応募があった中から、絵画32点、写真8点、計40点が入選した。



なお、表彰式は11月7日から、盛岡駅西口にあるアイーナで開催される「いわて環境王国展2009」の一画で行われる予定で、入選作品は11月7日から8日まで、アイーナ内に展示され一般に公開されるほか、広報活動に幅広く活用されることとなっている。



小学校低学年の部 金賞
「みんななかよしぼくじょう」 長川瑞希



中学校の部 金賞
「山」 村松海知



小学校中学年の部 金賞
「いいいもが収穫できた」 及川舜也



小学校高学年の部 金賞
「さんさ踊り」 中野絵理

平成21年度「農村景観」写真コンクール入賞作品

賞	タイトル	氏名
最優秀賞	田んぼで準備体操	蒲澤隆治
優秀賞	子供百姓踊り	小原順次
優秀賞	1年の願い	中村隆洋
優秀賞	大根洗い	佐藤光義



最優秀賞
「田んぼで準備体操」 蒲澤隆治

いわて シリーズ 疏水紀行 9

「岩手県の土地改良」では、県内の疏水の歴史や疏水を通じ活動を展開する水土里ネットをシリーズで掲載しております。

9回目となる今回は、現在の奥州市衣川区の水不足を解消するために寛文年間に開削された「北大堰」を紹介します。

衣川の稲作の歴史はこの流れのもとに

[北大堰]

山田治佐エ門が命をかけて開削した「北大堰」

現在の奥州市衣川区の地域では、早くから稲作が行われていたが、水源はため池と沢水に頼るしかなかった。特にも今から約340年ほど前の寛文年間、旱魃や災害が毎年のように続き、村人は年々飢えに苦しむようになった。

時の村長であった千葉氏は、村人達の苦しみをみるに忍びなく、この村の徳沢に住んでいた山田治左エ門に、打開策を考えるよう依頼していた。

ある日、治左エ門は妙案が浮かび村長とともに中尊寺山の頂上に登った。衣川村の山々の起伏や高低を見渡しなが、山の裾野に水路を通す方法で村人達の苦しみを解消できると確信した。

しかし、工事に取り掛かろうとしたとき、ある村人から「昔からこのように堰を掘ろうとすれば、神の祟りがあって必ず人命が失われる」と告げられた。

治左右衛門は「もとより希うところである。総ては自分自身のことだけではなく広くは国民のためにすることである。この堰が完成すれ



【昭和40年代前半の素掘隧道】

ば、世の人々を救うことになるであろう。軽き生命を惜しむあまり、この大事業を失うことができようか」と云った。

その後、難工事の末、北股川上流の桑畑に取水源となる頭首工が造成されるとともに、5400間(約9700m)の用水路が開削され、221町6反(約220ha)の田畑に用水が行き渡り、当地域に五穀豊穡をもたらした。



地域が一体となってアドプト活動

現在の北大堰は、県営事業(S41～47年)で全面改修されたもので、農業用水はもとより生活用水や防火用水としても利用され、地域生活に無くてはならないものとなっている。

下流には、団体営事業で水辺公園が整備されており、夏の暑い時期には、子ども達が水遊びをしたり、涼を求め散策路を散歩する人の姿が見られるなど、地域住民の憩いの場となっている。

また、地域の水路は地域の手で守ろうと、地域の3つの自治会や建設業協会が、水土里ネット衣川、奥州市とアドプト協定を結び、公園周辺の草刈りや水路の泥上げなど保全活動を積極的に行っている。



【保全活動の様子】

水土里ネット衣川

理事長:千葉 武

事務所:奥州市衣川区古戸424-12

TEL:0197-52-3333

